

2025



論壇

Contribution to
JAHFA



生活に密着したインフラ モビリティ企業としての挑戦

スズキ株式会社
代表取締役 社長
鈴木 俊宏

はじめに

弊社は2025年2月、2025-2030年度を対象とした新中期経営計画を発表し、「生活に密着したインフラモビリティ」を目指すべき姿として掲げました。また、新たに制定したコーポレートスローガン「By Your Side」には、お客様の暮らしに寄り添い、ともに歩み続けるという決意を込めています。

これまで培ってきた小型・軽量・高効率の技術に一層磨きをかけ、環境・エネルギー問題への対応に加え、人々の移動に関わる社会課題にも積極的に取り組んでまいります。

「10年先を見据えた技術戦略 2025」について

2025年9月には、「10年先を見据えた技術戦略 2025」を発表しました。今回はこのエネルギー極少化の取り組みの進捗についてご紹介します。

■軽くて安全な車体

技術戦略2025の柱の一つが、軽くて安全な車体づくりです。安全で軽量な「HEARTECT(ハーテクト)」をさらに進化させ、2024年に掲げた「100kg軽量化」の目標に向か、二輪・四輪の垣根を越えた開発により、約80kgの軽量化の目処を得ることができました。今後も性能を担保しながら、ボルト一本に至るまで最適化を図り、目標達成を目指します。

■効率良い ICE、CNF 技術

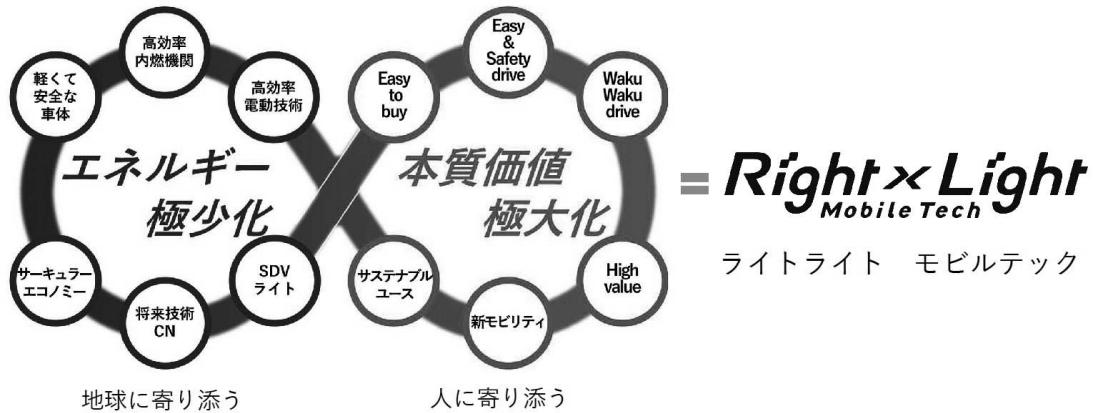
パワートレイン分野では、2024年に発表した「スーパーEネチャージ」を、軽いクルマに最適なハイブリッドシステムとして先行開発を進めており目標



新型「e ビターラ」

By Your Sideで日々の移動における社会課題を解決する

～世界中の人々に移動の自由を～



性能を達成できる見込みです。さらに、高速燃焼・低フリクション技術を磨き上げた高効率エンジンの開発や、カーボンニュートラル燃料(CNF)対応の二輪・四輪車の投入も進めています。

■バッテリーリーンな BEV と HEV

電動化においては、スズキらしい「バッテリーリーン」なアプローチを採用しています。小型・軽量・高効率の電動ユニットと電池を組み合わせ、エネルギーを極少化したBEV/HEVを開発。スズキ初のBEV「e ビターラ」は、SUVの力強さとEVの先進性を両立し、航続距離も十分に確保しました。二輪では、インドで発表した「e-ACCESS」をバッテリーリーンな丁度いいEVスクーターとして、各国で投入する予定です。

■ SDV ライト / リサイクルしやすい易分解設計

お客様にとって“丁度いい”機能を厳選し、価値ある電装品を搭載する「SDV ライト」の考え方を「e ビターラ」に適用しました。また、リサイクルしやすい易分解設計や、樹脂部品の減量、モノマテリアル化、再生プラスチックの活用など、資源循環型社会への貢献も着実に進めて、順次製品に導入してまいります。

■ カーボンニュートラルに向けた取り組みについて

カーボンニュートラルへの挑戦も加速しています。

「チームスズキCNチャレンジ」では、鈴鹿8耐において、ライダー以外をスズキ社員で構成し、カーボンニュートラル社会の実現に向けた技術開発と社員の挑戦意欲を高めて強いチームワークが生まれました。マシンには、サステナブル素材の部品や100%サステナブル燃料を採用して挑戦しました。さらにインドで進めるバイオガス事業は、国際連合工業開発機関(UNIDO)の産業協力プログラムに採択されました。

2025年から稼働予定のバイオガス・プラントは、CNG車の燃料供給や温室効果ガス削減に加え、農村の所得向上や雇用創出にも寄与します。牛糞の買い取りや有機肥料の生産を通じ、地域の生活水準や生産性の向上にも貢献していきます。製造現場では「スズキ・スマートファクトリー」プロジェクトを推進し、デジタル技術で操業を見える化。品質と生産性を高めながらエネルギー使用を削減しています。

最後に

私たちは従来の行動理念である「現場・現物・現実(3現主義)」に、より本質的な問題解決を目指して「原理・原則(2原)」を加え、新たに「3現・2原」を掲げました。地球に寄り添う技術哲学で「エネルギー極少化」を、ヒトに寄り添う技術で「本質価値極大化」を追求し、「Right × Light Mobile Tech」として、お客様に寄り添う価値をお届けしていきます。これからスズキに、ご期待ください。